

池田東籬亭校止

葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

五編
全十冊

京榊書林

額田篁額堂

岡田羣玉堂

梓

緒言



明治十年交換

陳壽撰之國志曾啣於不借得

于斛宋不為丁虞之傳何陋也

有懟乎諸葛亮其父損之云非

將才在何偏也西事猶隸矧之他

乎安知權機神策無痕跡者不



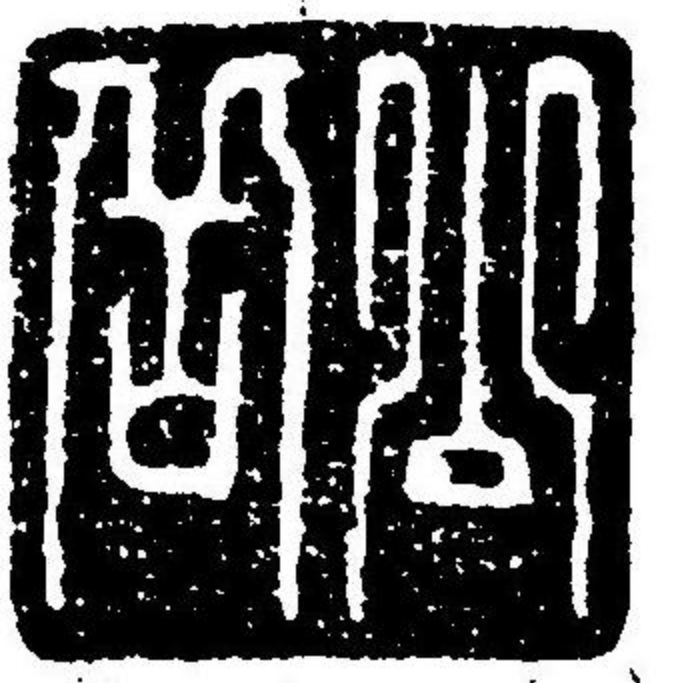
繪本通俗三國志

五編

取舍因人耶小說家偷眼乎此
藉憤懣之資以縱筆之所如觀
颺時勢較筆人物左轉右換另
開懷之奇之勾場逐伴當時豪
儁酬志償恨瞑於永壤又使後世
才士拊髀抵掌看蹋不已馬矯

正雖太過也抑亦古今之痛快矣
草澤之困志五編刻成一編痛
快於一編兒輩玩諸味之可也
天保十年己亥三月淳風子攬
筆於綠香茶寮

武州司馬藤公嶽主





周秦字幼平

司馬王甫



張郃字馬又

長老普靜

欠

MISSING

繪本通俗三國志五編總目錄

卷之壹

張飛巴郡釋嚴顏

孔明定計擒張任

楊阜借兵破馬超

卷之二

葭萌關張飛戰馬超

玄德平定成都

關羽單刀赴吳會

卷之三

曹操擊殺伏皇后

曹操破漢中張魯
張遼大戦道遼津

卷之四

甘寧百騎襲曹操

魏王宮左慈擲盆

曹操試神卜管輅

卷之五

取紀韋晃討曹操

瓦口関張飛戦張郃

黄忠嚴顔破魏兵

黄忠馘夏侯淵

卷之六

趙雲大戦漢水

玄德智取漢中

曹操忌殺楊修

玄德進位漢中王

卷之七

関羽威震華復

龐德搆榷戦関羽

関羽淹殺魏七軍

卷之八

華陀乱骨治関羽

呂蒙定計取荆及

關羽大戰徐晃

關羽夜走麦城

卷之九

玉泉山關羽顯神

漢中王大哭關羽

曹操殺神医華陀

曹丕執政称魏王

卷之十

曹子建七步作詩

漢中王怒殺劉封

廢漢帝曹丕奪位

漢中王即皇帝位

物心目錄終

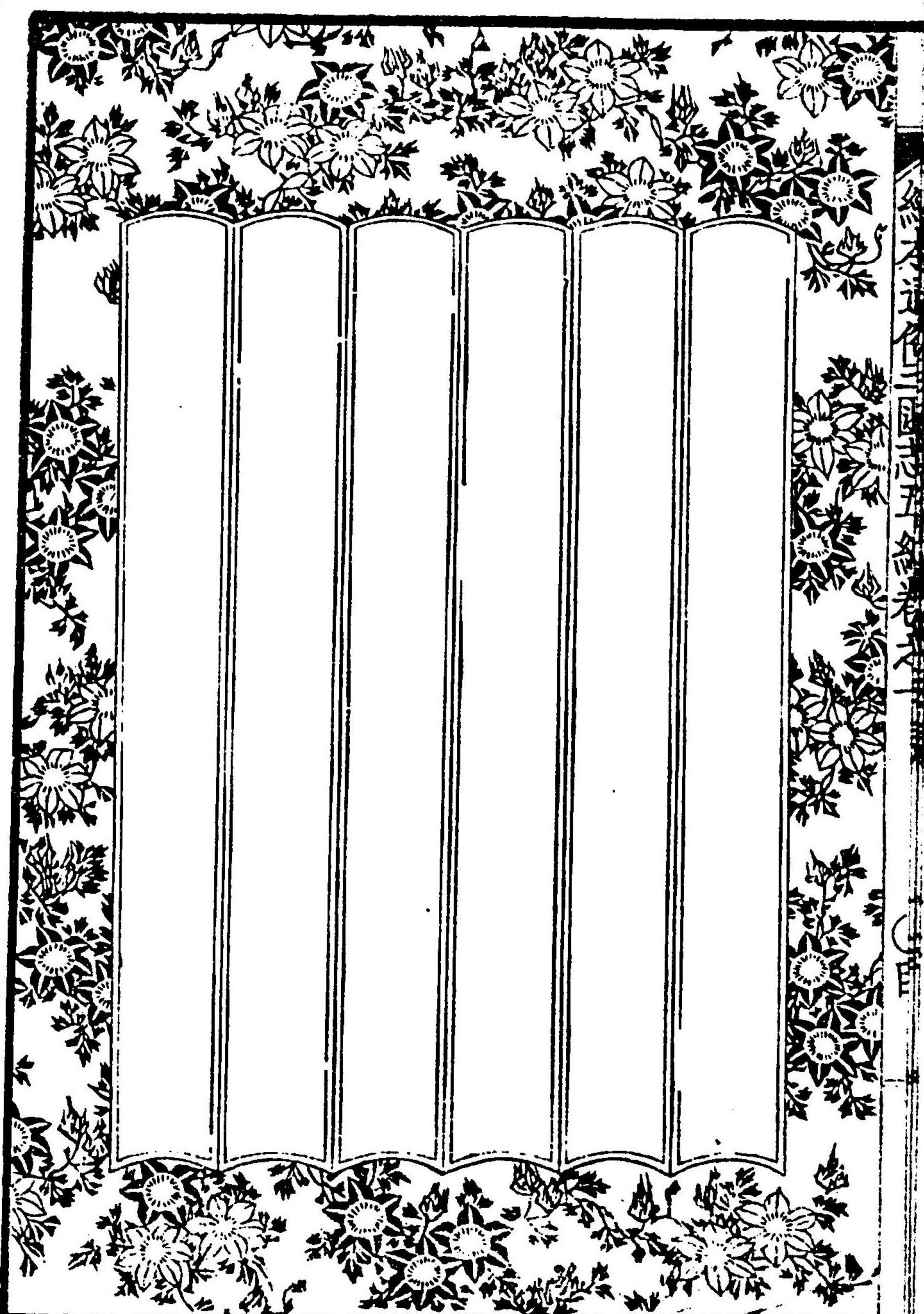
繪本通俗三國志五篇卷之一

目錄

張飛巴郡叔嚴顏

孔明定計擒張任

楊阜借兵破馬超



繪本通俗三國志五編卷之壹

張飛巴郡釋嚴顏

是とき荆乃五月七夕の日、當り孔明酒宴を設け、夜も入て、諸大將を酌め、蜀を収るのころ、と物結をなす。忽ち西の方より一の星あり、その大さ、斗のどくよりして、天より落光流きて、西に散りけし。孔明め、いと驚き、盃を地よきて、哀ひうれと哭く。諸人のやまんで、その故を問べ、孔明けし、さき天文を考へ、今年ハ四星西方ありて、軍師に利ありき。天狗星が軍を犯す。太白星、雒城の分を臨り、その人の書簡を献て、己が君を言なまると料ん、今夕西方に星落て、嚴統、忽ち亡びんとす。又君の二つの臂を失ふとて、大に哭きけし。満坐をなす。

醒して。さうして信じた。あつて。けしき。軍師の哭き。低
 語け。孔明。ける。諸將。遠出。入。数日の内。消息。あつて。今夜。無気。退散。二三日。經て。
 関羽。一處。共。義。関平。蜀の國。来。り。報。人。愕。對面。乃。玄徳の
 書簡。出。孔明。ひ。七月七日。合戦。龐統。軍師。
 落。鳳坡。の。蜀の大將。張任。射殺。早。来。い。
 孔明。曰。君。落城。の。進退。の。難。時。は。ま。
 行。孔明。曰。君。落城。の。進退。の。難。時。は。ま。
 守。荆。守。の。地。は。重。孔明。

曰く。この書簡の中。荆及びの。其。任。書。上。の。耳。入。と。判。守。の。使。御。意。底。関羽。荆。守。関平。使。入。佐。の。義。御。邊。桃。園。の。義。情。想。の。堪。守。北。曹。操。東。孫。權。當。の。事。可。の。任。関羽。の。辞。儼。然。領。義。け。孔明。酒。宴。説。大將。の。荆。大將。の。印。幾。渡。左。右。の。手。の。捧。関羽。の。國。の。大。事。御。邊。の。身。係。り。関羽。曰。大。夫。夫。の。國。の。大。事。を。司。死。人。ぞ。借。孔明。の。死。を。輕。人。ぞ。

孔明、印綬を持ちて来り。問て曰く、「曹操攻来らざるを以て拒ぎ
 ざるを、關羽が曰く、力を竭しては、たゞ當らん。孔明又曰く、「曹
 操孫權は、よく来らざる。關羽答て曰く、兵を分てさす。云
 せ、孔明曰く、「さうとすまの、荆及び危し。さす八字とせ、御
 教を、孔明曰く、「北拒曹孫東和孫權、さの八字とせ、
 上とす、關羽曰く、軍師の教、さの肺腑、銘じて忘れぬ。下孔
 明とす、さす、印綬を渡す。文官より馬良、伊籍、向朗、糜竺、武將は
 糜竺、芳、廖化、關平、周倉、示して止めて、さす、荆及び守らる。さす、
 精兵二万余騎と、扶んで、張飛と大將と。大路より進んで、巴郡
 と通り、維城の西に上よ。さす、趙雲と先手として、舟路より、維城

といひ、さす、早く、維城を出た。さす、第一の功とせん。さす、後、
 一万五千の勢を率へ、簡雍、蔣琬と、進んで、手分、
 了、け、さす、同日、打立んとす。酒宴を設け、相別る。孔明と
 さす、張飛と、教言て曰く、「蜀の國は、英雄をさす、多く、さす、
 一、敵と、さす、御、邊、さす、路、よ、て、手下の勢を、戒め、匡へ、
 劫へ、掠めて、民の心を失と、さす、行、さす、隣、と、垂、て、人、と
 懐、け、よ、人の世、さす、のみ、只、徳、と、さす、のみ、で、衆、と、伏、と、さす、
 さす、さす、して、百姓、と、さす、怒、へ、さす、さす、さす、さす、さす、さす、
 さす、さす、さす、第一の功と、立、さす、さす、さす、さす、張、飛、よ、さす、さす、
 万余騎を、率へ、さす、さす、さす、さす、さす、さす、さす、さす、
 民風、と、望、んで、降、さす、さす、さす、さす、さす、さす、さす、さす、

命とてその使の耳鼻を割進立て生け置ぎその人逃回りて
 張飛を見へまげひて右のおもむきと結ぶ張飛のゆでの外怒を
 あし。齒で切ひて馬のり。殺百騎と引て巴郡の城下におよせ
 ける。敵一人も出ぬ。と。矢倉の上より。さうさう。悪口け
 れバ張飛本より。性急し。て。壕を越んとせると。殺なま。まび
 し。ど。も。と。ま。乱。矢。射。回。さ。る。已。日。暮。く。も。敵。一。人。も。出。で
 り。つ。べ。張。飛。怒。の。気。ま。ま。休。も。本。陣。回。り。て。次。の。日。又。早。天。よ
 お。よ。せ。け。ま。べ。巖。顔。矢。倉。上。つ。て。張。飛。が。盛。の。真。甲。を。射。る。張。飛
 ま。ま。怒。り。り。汝。を。生。取。ら。ん。其。肉。と。ら。ん。ん
 そ。の。ど。い。て。暮。ま。よ。ん。を。空。く。回。る。大。の。城。元。来。山。は。な。び。鳥。が
 け。り。た。ま。要。害。ち。ん。の。弟。三。の。日。張。飛。兵。を。引。て。又。お。よ。せ。ま。り

くら。傍。ち。る。山。の。頂。上。の。城。目。の。下。望。城。中。の。多。兵。軍
 勢。ま。び。く。鎧。で。隊。伍。を。乱。さ。ま。並。居。たり。張。飛。手。下。の。もの
 下。知。り。て。も。ま。い。さ。ん。ぐ。悪。口。を。腹。に。立。て。出。る。上。も。あ。ら
 んと。声。の。大。ち。う。の。も。で。扱。び。出。し。種。々。の。言。ら。し。む。れ。ども
 さ。ら。ま。出。ま。又。兵。と。馬。より。下。し。地。の上。仰。け。伏。せ。敵。の。あ
 る。む。く。体。の。ま。を。今。や。出。ると。待。け。ま。暮。ま。及。ま。を。出。る。者
 ま。張。飛。む。あ。く。が。陣。を。回。り。終。夜。思。案。し。て。次。の。日。一。人
 も。城。を。向。ま。ま。び。く。甲。で。敵。も。よ。せ。来。ら。勢。ひ。の。ゆ。で。攻。入
 ん。と。待。居。な。ま。ご。も。あ。り。て。その。様。子。も。あ。り。つ。又。十。騎。二。十。騎
 づ。と。遣。し。て。ま。い。さ。ん。ぐ。の。言。ら。し。敵。も。一。出。を。赤。り。負。て。逃。来。れ
 る。討。ん。と。腕。を。拳。を。握。り。て。待。け。ま。い。さ。ん。ぐ

つらふに夜日を送りけむ。鬱々として安んじらむ。又一の計を案ず。兵を四方に分て路を尋ね草を刈りて。巖顔の城中にありて。夜日張飛が来らざりけむ。城内の内にありて。十余人の兵を出して。張飛が草刈の内に入つて。其様を伺ひ。まうしむ。日草刈の兵ども本陣を回りけむ。張飛は足で翻て大に言ひ。巖顔匹夫。いふもれども。あてて城を出む。氣を病せて。殆ど死んで殺さんと。さういふは。二人の士卒。告て曰く。將軍御心で安んじ。入るの間草を刈て。路を尋ね。山間を二つの路あり。巴郡を越て。雒城へ通る。張飛が亦り。叱り曰く。さうの路あり。早く走らざらば。士卒も。ま曰く。さうのめ。日と重ねて。尋ね出せり。張飛が白く。延ぶる。

べららむ。この城を攻んと。徒ら日を送らば。何の時。雒城のたると。得ん。た。この城を打棄て。ひらう。山路を通る。今夜の二更。兵糧を使て。三更月のあまらう。打起べ。人救を。卸し。馬の鈴を収て。敵の走らざらば。我の先。進んで。路をひらくべ。汝も。次第で守りて。来れ。用意。せ。たり。けむ。初め草刈。ま。ま。入りたる。巖顔が手の者。い。城の中。回りて。右の趣を告げ。巖顔大に喜んで。曰く。これこそ。張飛が。出て。戦ひ。る。氣を。悩。び。ら。う。山を。超。て。通。ら。ん。と。ま。の。れ。が。望。む。る。ち。う。り。か。ま。し。山を。超。べ。兵。糧。輜。重。も。あ。ら。む。と。ま。後。陣。を。あ。ら。ん。が。計。を。め。て。一。人。も。通。さ。ざ。り。計。止。む。と。て。手。下。の。勢。を。下。知。り。傳。へ。二。更。の。兵。糧。を。使。て。三。更。の。城。を。い。で。

樹木の志げりたる中ニ埋伏して張飛が勢の半とぞ通るも
 りま鼓を打て相図てあるもそのとき一度は出て敵の後陣を
 討てとぐく輜重を奪がりとてその城を出て鼓の鳴と相待け
 る巖顔へむらう十騎あまうを引て鼓を打たせ林の中をかくれ
 て伺ひ居たるも三更の了り至りて果して敵の勢止まら
 り張飛矛をよき入て真先馬と出しあめぐと通て後陣を奪
 の輜重で運び陸続して進奈も巖顔へ喜びむら討して一度は
 合図の鼓を打けむ四方の伏兵とぐく起りてさうぐも攻た
 たり輜重を奪つんとぞあるも忽然として後を喊を叫と作り
 老匹夫とろよく降参せよとぞつりけむ巖顔大よおろるひ後
 とぞあるも一人の大將頭へ豹のごとく大の眼を怒り虎鬚とぞとぬ

みのがめて一丈八尺の矛を提げるとかまれ燕人張飛あり女逃ふ
 正とあられと討り馬を飛して討てかり鼓の音天地を崩も巖顔
 膽を冷し手足を措く所なく是非ちく馬と交て十合あがり
 戦ひけむ張飛勇を振て巖顔が甲の上帯と相んで四五奈
 うり投たりける巖顔投られたまどむ倒れまどなごも足な
 踏直とんととぞあるも張飛が兵むらうり来り押さ卒に生捉
 けりまどとてその勢とぐく逃散けるも張飛殺して巴
 郡の城下まで到りけむ後陣の勢とぞ城を乗取甲とぞ
 て戈と卸て降入し出るものその板とぞらむ張飛城中へ入
 て民と安んず手下の勢と法と生して秋毫も犯さとぞとぞ
 平定とぞ武士ども巖顔とまをんで来りけむ張飛廳上へ



張飛



嚴顏

張飛
巴郡
智計と
嚴顏と降す

堅して。たまて。とる。又。嚴顔。あへて。跪。張飛。目。怒。示。交。
 や。大將。さ。至。以。て。降。無。礼。と。さ。う。と。い。ひ。け。し。嚴。
 顔。を。ま。し。も。怕。る。色。さ。く。叫。ん。で。け。る。汝。亦。不。義。の。風。華。を。ま。
 して。ま。か。國。の。塚。を。犯。せ。る。ま。か。國。の。首。を。切。る。大將。の。ま。も。降。
 参。さ。る。大將。へ。ま。張。飛。い。よ。く。怒。り。早。く。殺。せ。と。下。知。さ。れ。嚴。
 顔。の。き。笑。ひ。て。曰。く。汝。賊。匹。夫。ま。か。首。を。切。ば。早。く。斬。る。べ。し。ま。も。て。
 さ。ち。ど。も。腹。を。立。る。ぞ。張。飛。笑。ひ。て。い。そ。ぎ。階。を。下。り。武。士。と。追。
 の。け。ま。が。ら。ら。そ。の。繩。を。解。て。引。て。上。座。ま。も。入。再。拜。し。て。あ。め。く。敬。ひ。
 さ。ま。ま。の。妻。又。初。出。し。て。無。礼。と。あ。い。幸。々。怒。る。人。ま。も。本。より。將。
 軍。の。忠。義。と。ま。る。と。い。ひ。て。酒。を。進。め。上。賓。の。礼。と。め。り。て。持。成。け。れ。
 ば。嚴。顔。そ。の。恩。義。を。感。ず。て。卒。に。降。る。張。飛。ま。も。よ。ろ。ま。び。蜀。に。入。の。

計。を。問。ふ。嚴。顔。し。け。る。大。軍。の。將。の。め。り。く。恩。を。蒙。る。お。れ。で。報。せ。ん。
 ま。も。と。ま。る。一。孫。が。く。ち。大。馬。の。勞。を。尽。し。弓。を。張。力。の。鞞。を。脱。さ。し。ま。と。
 と。用。ひ。ま。直。に。成。都。と。取。て。將。軍。に。報。ぜ。ん。張。飛。謹。ん。で。謝。し。て。
 曰。く。孫。が。く。ち。教。え。ん。嚴。顔。が。曰。く。ま。れ。り。維。城。ま。も。の。間。に。城。を。構。
 関。に。居。た。ら。る。三。十。余。の。人。を。力。業。に。通。る。ま。も。と。ま。ち。あ。い。の。寄。
 む。と。ま。せ。し。ま。ま。れ。と。あ。某。が。下。知。ま。した。ま。も。の。ど。も。あ。れ。を。事。と。せ。
 又。掌。の。中。に。あ。り。某。が。く。ち。真。先。ま。も。ん。で。尽。く。降。参。せ。ま。も。子。
 戈。を。動。さ。し。ま。維。城。の。い。ま。ら。ん。張。飛。を。れ。か。喜。び。ま。れ。り。民。を。
 安。ん。ど。軍。を。賞。し。て。至。る。を。降。ら。む。と。い。ひ。ま。も。と。ま。く。た。と。ひ。降。さ。る。者。
 あ。れ。も。嚴。顔。ま。も。が。ら。ら。ま。も。び。出。し。ま。も。ま。も。入。ま。も。此。の。正。し。況。や。汝。
 亦。や。と。い。ひ。て。蒯。け。ま。も。ま。も。風。を。望。ん。で。飯。順。し。一。人。ま。も。殺。さ。ま。

とるくして。雒城までせめて行く

孔明定計擒張任

このとき。玄徳は涪城にありて。龐統が討きて。後に入て戦ひ。大に
のへき。ひい入る孔明が来るを待て。御坐しける。ある。か。心。ち。荆。州。の。り。
飛脚到来して。孔明が書簡をたてまはる。玄徳は。き。こ。え。て。諸將
を。あ。い。わ。せ。今。孔明と張飛と水陸二手に分れて。大の。あ。る。来。る。已。よ
七月二十日。荆。州。を。打。立。と。告。来。ま。う。る。や。う。す。く。日。ね。も。立。ぬ。れ。ば。い。ま
へ。や。近。付。ぬ。ら。ん。と。い。ひ。入。を。黄。忠。が。あ。く。蜀。の。大。將。張。任。毎。日。ま
た。い。て。戦。ひ。と。催。し。ひ。共。其。ホ。が。出。さ。ふ。と。い。て。あ。ま。が。陣。を。あ。お。し。て。
備。ま。し。今。夜。ひ。そ。う。み。か。し。よ。み。その。不。意。に。出。づ。と。ま。て。破。ん。と。明。く
玄徳。大。れ。に。從。ひ。し。つ。り。中。軍。を。引。て。黄。忠。を。左。に。備。へ。魏。延。を。右

に。備。へ。その。夜。の。三。更。に。ひ。と。く。張。任。が。陣。を。あ。お。し。四。方。より。火
を。付。て。さ。ん。ぐ。み。蒐。破。り。け。ま。ば。案。の。ど。く。張。任。が。勢。勢。を。急
に。て。居。た。り。し。ゆ。人。大。に。乱。と。逃。ら。う。と。す。玄。徳。追。か。け。雒。城。を。來。し
ゆ。人。を。城。中。の。勢。討。て。出。て。張。任。と。と。く。ひ。回。る。玄。徳。半。途。に。陣
と。取。て。次。の。日。雒。城。を。あ。お。し。よ。せ。息。を。も。継。せ。ま。て。一。昼。一。夜。攻。め。入。り
も。城。中。に。張。任。が。計。を。用。ひ。て。一。人。も。外。に。出。さ。ぬ。守。手。の。方。つ
う。れ。て。弱。た。る。と。い。ま。さ。う。に。出。て。あ。ま。が。打。つ。玄。徳。も。あ。ら。ま。で。擒
ま。る。べ。し。と。て。さ。ま。の。楯。籠。で。態。と。出。ま。す。玄。徳。の。い。り。西。の。門。を。攻
め。ひ。黄。忠。魏。延。を。東。と。攻。南。へ。山。路。二。條。通。り。と。す。險。阻。は。北
へ。涪。水。の。大。江。に。よ。り。て。逃。ら。ま。さ。か。し。な。り。け。ま。ば。あ。の。二。方。を。開。き
已。よ。四。日。ま。で。攻。め。其。日。の。未。の。下。に。至。り。人。馬。を。あ。疲。れ。し。ま。は。ま。す

らく退ひて息を継いでさるる城中より。張任はまゝとて軍を敵
の人馬を倦ませ已に疲れたり。南より出て西の門は
まのり。玄德と生取べし。吳蘭雷同一兵を率て北より出東に
門はまのりて。黄忠魏延と遮り入ると。城中の兵を救はんとて。
手分て定め多く百姓をのりて城を守せ。城を作り。鼓
を打て。威を助けし。去程に玄德は人馬を休めんとて。その日の暮
方に退くとしよ。俄に城中。鑼を鳴し。鼓を打て。震動し。南
の門より張任が一軍突出し。直に西にまのりて。玄德の備は討て
入る勢に電光の激さるるごとく。ちりけし。玄德の勢も疲
て一丈も支えど。四角八方に散乱し。黄忠魏延はれとて。馳
まると。接んでされべし。又北の門より。吳蘭雷同一勢を率て。馳

出逢て遮りて。まゝとて。戦ひ。まゝとて。前後相顧ると。お
たむ。まゝとて。乱れ。玄德唯一騎山路をさして走り。又張
任六七騎を引て。まゝとて。追て。それほど急なり。玄德は身
に付て。鞭を加。逃れ。又向より。一手の勢。出来。玄
徳はまゝとて。大に嘆き。前は伏兵あり。後を追手あり。天
にまゝとて。亡む。おせり。とて。逃れ。まゝとて。是とて。人を敵にのりて。
張飛あり。元来張飛は巴郡を経て。その路條より。来た。は。こが
遙に馬烟のあがる。とて。切の合戦の最中。ちりて。速く
おせ付し。ちり。まゝとて。玄德の天子たる。まゝ。洪福のあま
ゆゆ。不思議の急を免れ。入り。張飛は。馬を乗。て。
例の一丈八尺の矛を。打。直に張任を討て。かり。十余合戦

れる由とまき。人々あかたし失ふとせん。計を殺しければ呉懿
劉瓚をける。危し。まうど城を出て。さうよく勝負て来
。成都は急を告て。又援の兵を乞ふ。張任曰く。其二軍討て
明日城を出て戦ひとせ。人詭り負て敵とてまひまき。城の北まひる
べし。御辺二人の内一人兵をまて。横間を討て生か入。呉懿が曰く。劉瓚
へ公子劉循と守護し。城中は雷り。人々。さうよく出て敵を
討んとて。張任と手分て定ち。次の日張任城を造りて出ル。張
飛馬を放りて十合あり。戦ひ張任詭りて走け。張飛勢ハ
よ。追駈る。城の中より。こまき。呉懿が一軍討て。生か色
を。さうよく戦ひ張飛小勢にて。陣を出ると。あたは。進退殆
谷れる。あま。玄德兵をまて。救ひ。人々。まき。一手の勢。涪江の辺より

まき来り。人の大将鎗とひねつて。真先まき。呉懿と戦ひ。こ
た。一合より。忽ち馬上は生取り。張飛とて。こまき。さ
常山の趙雲あり。け。孔明。い。よ。問。趙雲が曰く。さ。川
まき。命。あ。の。名。を。救。う。り。量。ま。い。ま。本陣。入。り。ま
とて。張飛と打。ま。本陣。ま。回り。け。孔明。の。簡雍。蔣琬。と
玄德の前。あり。張飛。入。り。見。へ。け。孔明。あ。ど。ろ。ひ。け。さ
。御。辺。い。ま。右。早。く。ま。来。れ。る。玄德。と。あ。ち。巴。郡。ま。最
。顔。ま。ま。り。ま。こと。詰。り。の。ま。孔明。賀。し。て。曰。く。ま。な。れ。を
ち。君。の。洪。福。あり。張飛。浩。る。計。を。用。ひ。て。あ。の。莫。大。の。功。を。辛
り。金石。ま。勅。し。て。後。世。ま。傳。べ。し。趙雲。と。ま。き。呉懿。と。縛。く。ま
ければ。玄德。の。曰。く。汝。い。ま。い。ま。ま。降。ら。ん。や。呉懿。が。曰。く。今。ま

で生取る。いづれぞ降参せざる人き。玄德大に喜び上賓の礼を
やむ。敬ひる人ば孔明問て曰く。雒城の中は軍勢いづれに
あつて呉懿が曰く。劉璋の嫡子劉循を扶て劉璋張任を
この内にあつ。張任は蜀郡の人にて。智謀人は超たり。輕
へ敵にがたし孔明が曰く。まをが張任を生取て其後、雒城
と取らぬ城の東ある橋は。いづれなる名ぞ。呉懿が曰く。まは。この金雁橋
あり。孔明されし馬のゆりて橋の上下て未だくこめざり。陣中
へりて黄忠魏延と呼て曰く。金雁橋の南五六里の兩岸に苦葭
志ひりて兵を伏せし。魏延の鎗と使し勢千余騎を引て左に伏せ
敵きたらば射て出て馬上より突落せ。黄忠の難力を使勢千余
騎を引て右に伏せ敵きたらば。ひりて馬の足とさき。倒せ張任を
ら

ば。東ある山路を走らる張飛へ勇て東の山路を千余騎を引て
埋伏して張任を擒みせよ。趙雲の橋より北に伏て。張任を帶
きいづりて橋を通りまをさるて伺ひ早く橋と切落して却て
兵を橋の北に備へ。まをさる勢ひとあつて敵とあむむ張任を
へて北に回らるも南にまをさるて退きまのつら。まを計を落入る人
手分てまを定めけらる。雒城を成都より卓膺張翼二
人の大将生手と引て来り加りけらる。まをまを力とあつて劉璋張
翼を留りて城を守り張任へ。まをまを。卓膺と前後まを人
城を出て敵と拒ぐ。まをまを孔明一手の勢を率し。金雁橋を
まをまを。陣を張四輪車と真先まをまを。百騎のまをまを左
右にまを入。遙に羽扇とまをまを張任とまをまを。曹操が。百方の勢

放しつひに張任が曰く。今日たつ降るるも久しきこと
又叛ん秘がかり早く首て刎入。玄德その忠義を
あまて殺さる。カビのむらうけは張任をばあてた。自
孔明が曰く。志くされて殺してその名を全せしむる
半く斬せしむ。玄德感嘆して尸を収て金雁橋乃
うたつら。あつて葬り。その忠義を表し。次の日嚴顔吳
懿ホとの余降泰の大將をや。先手直に雒城を推
よせて早く門を開て降泰せよ。よつらせしむ。劉瓛矢倉
よ上の恩とあらぬ奴をら羞て忘れて。まゝ来さるるを
る。後より一人力足とみて。劉瓛と踏倒し。門を開て降
けま。玄德の大勢とぐく乱れ入る。劉涪城の破れたる

とて。西の門より成都とさして。落行けし。玄德榜と生じて。
民と安んじ。門を開きたる。誰人ぞと問う。武陽の人にて。
張翼字の伯恭といふもの。劉瓛と縛て来り見ゆ。玄德
だりも。喜びのひらま。孔明が曰く。雒城も破ま。これを
成都と取と掌まあり。た。恐る。外のカ郡安ら。さ。ら。ん。と。せ。
い。張翼吳懿。趙雲と添て。定江捷為の辺に遣し。嚴顔
卓膺。張飛と添て。巴西德陽の辺に遣し。その辺のカ郡と
治め。や。の。入。玄德。ま。志。が。ひ。張飛。趙雲。命。と。速。る。
打起。早く成都を来ぬ。一手を。られ。い。人。を。と。あ。兵。を。ひ
いて。出。け。り。孔明。問。て。曰。く。され。や。成都。の。あ。い。は。關。所。あり
や。降。泰。の。人。答。て。曰。く。た。綿。竹。關。を。り。第一。の。要害。あり。



孔明
智と
張任
勇と
擒す

一さまで取らば成都の掌中ぬめり。法正が曰く「やむを軽しく進むべからざる。恐るる成都の人民を驚かし、其の計めり手と懐きしめて成都を取らん。玄德の曰く「法正が曰く「維城を破れて蜀中危し。君よろしく仁義を以て四方を施し、息徳せしめて、諸人をして懐き入。今さうして兵を按て進み、其書簡を送りて利害を説き、劉璋をのびら来り降らん。孔明が曰く「その計良し。今書簡を遣り、入ると兵を按ていざ進む。去程の維城を破りて、劉循をうりて、逃回りけしむ。劉璋はけつての外ぬ。おどろき、諸將を以て計を議せしむ。從事廣漢の鄭度、生じて曰く「いざ玄德をうりて、荆及びよりきたりて、その勢疲れ衰へ、その國の軍民をうりて、服せしむ。その時やう

まのいざ。巴西梓潼の民を駭て、さうして涪水の西に移し、その米穀を焼尽して、壕を深し、城を固し、きびしく守り、うりて戦と催せしむ。あへて出ると、まを、勢、百日より内、兵糧尺いん。そのとき、虚みのいづ、まを、討り、鼓を玄德と生取む。劉璋が曰く「やむ。その計、まを、うりて、古より、敵を拒ひて、民を安んずると、まを、いづ、民を動して、敵を拒ぐと、まを、改む。計、よろしく、らと、と、相議せしむ。ある、忽ち、法正が使くと、書簡を出し、劉璋に、まを、いづ、その書、曰く

昨蒙遣差、結好、荆、乃、不、意、主、公、左、右、不、得、其、人、以、致、如、此、今、左、将、軍、舊、心、依、々、實、無、薄、意、望、三、思、裁、劃、可、因、變、化、以、保、尊、門、不、及、進、言、早、賜、回、意、示、下

曹操が下知と侍ていよと援をもつれよつて。冀城まで弱りけ
 れど、門を開いて降人を出んよつて。城の泰軍楊阜字の
 義山といふ者の涙とあつて、諫て曰く、馬超の君は叛く逆賊あり。
 いまの城中は籠る勢の小勢あるれども、お死と軽んじて、二心
 まし。いま却て逆賊を降るべまら。たゞ討死と志してよく。城
 と守り入。韋康が曰く、いま援の兵も来ども、事已に迫りの守りも何
 まらぬ。妹も。楊阜再三諫とも。韋康卒に從か。門を開て。
 降けり。馬超城中に入つて。韋康が二類四十余人と尽く搦ち
 取ら。急ちるよ至りて。降るその真の心あるを。老少
 男女と扱も。一人も残さむ。斬死と。ある人楊阜が韋康と諫て。
 降すと。云たる由と。斬て棄んと。ければ馬超が曰く、是

人義と守りて。主と諫む。あつて殺すと。勿れと。又楊阜と用
 て。参軍と。留て冀城と守ら。城中は梁寛超衢と。二人
 の大将あり。本され。楊阜が手下に属せるものあり。馬
 超初のどく。用させけり。楊阜が中におつて。馬超と滅さん
 と。おひら。あつて色を表さん。あると。馬超よむ。曰く、某が
 妻臨洮に死して。已に三月よあつると告来れり。後か。おれと葬
 りて。早く又回來ら。馬超子細と。許れば。楊阜直に歴城
 へ行。城の撫夷將軍姜叙と。その母の乃ち。楊阜
 が姑より。元より義と守りて。大賢の貞女あり。ければ。おれの人
 め。地上に拜哭。城と守て。全きこと。克と。主亡て死さん。と
 能と。いよ。姑に見ら。面目と。馬超の父は昔も。君の逆

て妻を郡守と殺さる。ある某一人のとき、ちんや、及びの士大夫、
くその耻を受いよ。姜叙のその城と坐ら保ひて。卒に賊と討の
んま。され趙盾が執其君と書れらる。あらざるやとのめて。涙で流
けま。その母をよとやめて。大に驚き。姜叙と呼で責て曰く。刺史韋
康をうよ害せられなひ。され汝が罪ありとて。又楊阜をむら
で汝をよ馬超を降る。いふして。その仇を報せん。といひ。はば楊
阜が曰く。まは馬超を従ひ主の仇を報せん。為らる。姜叙が曰
馬超の西涼カシより出て。その英雄あたる。そのは。ま。あ
圖がた。ら。楊阜が曰く。馬超の勇ありとら。い。計ま。是
と破んと。掌中よりあり。ま。已に梁寛超衢を計と約。御辺
兵と起して。ま。と扶る。共。内應せん。入り。その母をよとや

て姜叙をひらいて曰く。汝早く兵を聚さる。何れの時とま
ひ。古より。人の一度死せざる。い。忠義を死せらる
されその宜を得たるもの。汝を。い。掛とて勿
れも。早く。楊阜を佐て。君の仇を報せん。い。今
ある死して。汝が念と絶ん。姜叙され。従ひ即時に。兵校
尉。奉。趙昂二人と呼で。計と相議。軍兵とを揃へける。
趙昂のその子趙月と。い。馬超を志と。禪將たりけ
れ。家。回て。い。女房王氏と。の。い。今日姜叙
の命を受て。楊阜。奉。故主の仇を報せん。想。子
の趙月。馬超。あ。い。必。害。被らる。い。
ま。云。は。王氏。吉と。房。曰く。君の。大。耻。雪。身。と。さ

とも。ちんぞ。惜△況や。一人の子と顧て。浩る大義と奔んてや。若
 きの仇と報し。あつせん。今さうきて死と致さん。趙昂されま
 すとて。△決△次△の△日△同△の△兵△と△真△しく。美叙揚阜の歴城を屯し
 尹奉趙昂へ祁山は生王氏乃ち衣服と賣く。酒肴と用意し
 ぶらうら祁山の陣へ行。総軍を分ち与へて。そのらて。房けり馬
 超へ冀城をありて。その由て。将き怒て。趙昂が首を。歴
 麗德馬代と兵と起して。歴城へいふる。美叙揚阜半途に生
 いたる。自ら白き袍と喪の服と着て。馬を坐し。逆賊馬超父を背ま
 君と無さる。匹夫とよがりけり。馬超大に怒り。兵と馳て。さうへん
 冀たりける。美叙揚阜を。林へまゝ。先よと逃走。馬超
 勝みのゆて。追蒐るも。忽然と。後。喊の言ひ。も。尹奉趙昂

が製討てし。馬超まう。取て回して。戦人とし。入るも。前後の度と
 失る。拒ぐと。克ざるも。又うだり。大軍潮の洶がどく
 横間を。も。され。復。疾。洲。長。安。ありて。曹操が下知と受兵と
 引て来る。馬超。三方の敵を攻られ。支ると。克を。驟き。乱して
 終夜を。走。り。曉。冀城の。門。を。開。け。と。さ。つ。け。た。
 城の上より。鏃と揃く。雨の降どく。矢と放り。馬超大に愕ひ。ま
 れて。さ。へ。城。を。守。る。大。將。梁。寛。趙。衢。二。人。夫。倉。上。り。先。馬
 超が妻の楊氏と捕く。城の上で。一刀を切殺し。質を城外へまけ
 落し。次。馬超が子。も。三。人。も。至。親。十。余。人。一。切。殺。し。て
 と。城。外。へ。投。擧。げ。ぬ。馬。超。され。と。志。の。公。を。胸。墨。し。て
 殆ど馬より落さん。も。夏。疾。洲。が。大。軍。勢。の。ゆ。て。追。来。ひ

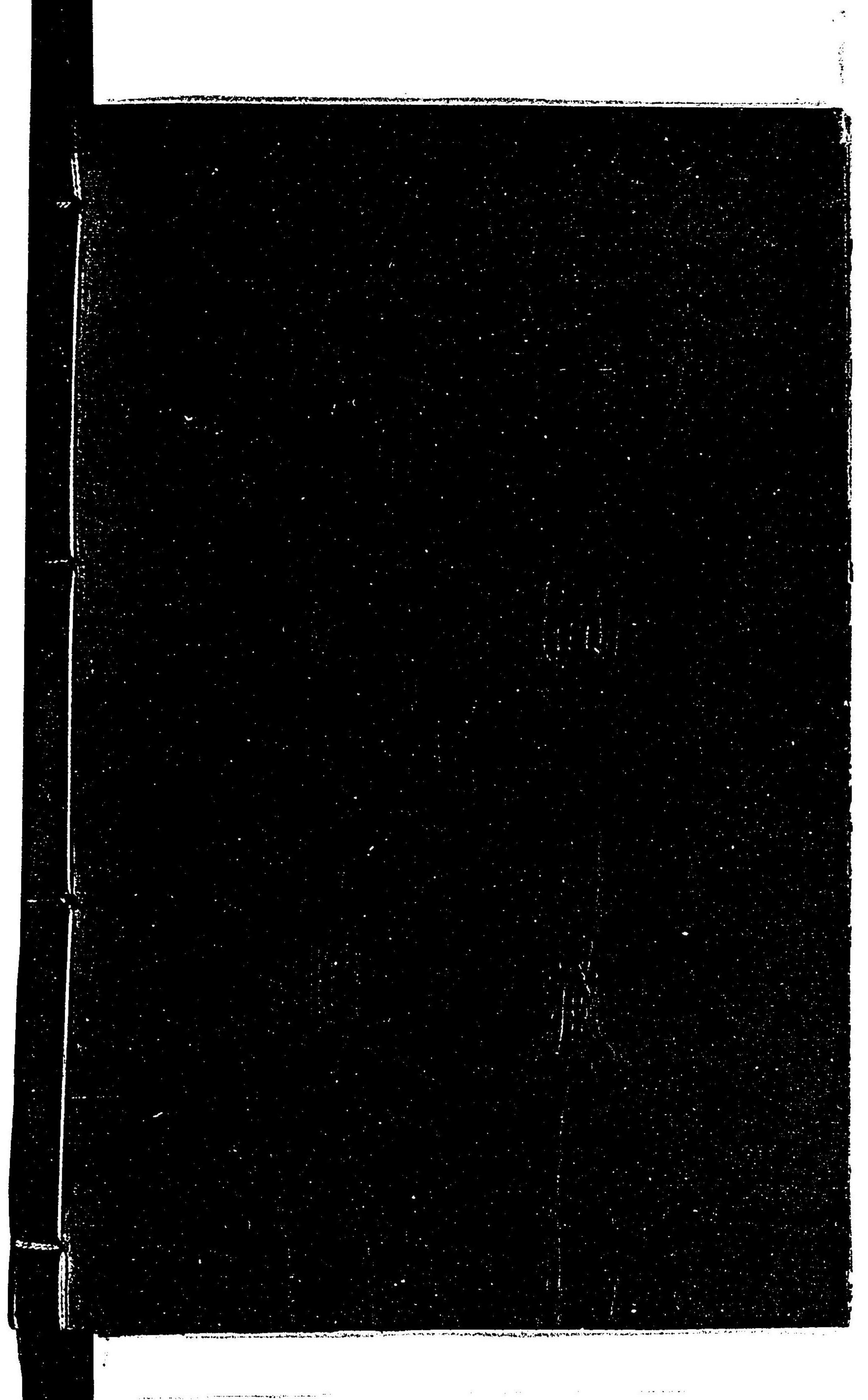
其馬超戦ふるまき力ちく。麗徳馬岱と一方を討破つてまきく。
 走りけるあま。又姜叙揚阜が勢討て蒐る馬超力を尽く戦
 ひ僅に逃れて走りけり。又尹奉趙昂が勢路を遮る馬超又
 喚て蒐入りに出て味方とていへば零々落こして五六十騎を打の
 ちされ終夜走て四更の比歴城に到る城を守る夜のま
 れば敵とてまらち。一人姜叙が兵回ぬといひけり。まらち門を開て
 むへける馬超南の門よりせ入て城中の軍民を尽く斬奔姜
 叙が宅を尋ねてその老母を捕へ老母年八十二歳まらち怖る気
 色まらち馬超とまらちぐみ討り。姜叙は背まらち君は逆へ天地の汝
 と容れや入らまらちと。天の罰と被らんとまらちつりけり。馬超
 いやく怒り。まらちら剣を抜て斬殺し。尹奉趙昂が宅を圍で

男女二人も残ち首を刎ける。趙昂が妻の王氏はいへる。逃れ
 たりけんその内まらち居ざらけり。次の日。夏茂洲が大軍寄来し。馬
 超城を打奔西とさして九里をうむ走ける。一手の勢路をさ
 へまらちて揚阜真先馬と出ても馬超齒を切つて怒ては。鎗を拵
 て。かきりけり。揚阜が一族の名を得たる大将七人。一度馬と双て
 討て生ける。まらち馬超を刺死る。揚阜の鎗まで。五不突れその
 身へ朱まらちけり。まらち退き戦ひける。夏茂洲が大軍の
 しろより蒐けり。馬超卒に叶て麗徳馬岱と五六騎を引て
 行方まらち落夫たり。夏茂洲下知て傳へ。陝西の乃公郡とまらち
 安んず。姜叙ホ命じて民を治め揚阜と車まらちのせて。都へ送り
 けり。曹操その忠義を称して。関内侯の封を揚阜が曰く君存

せらとまよ。難を打の功ちく。君亡びて。節死するの效まよ。義よ
ちく。編む市曹は。罪を正とん。況や馬超いづ。死せむ。さるんる
面目ありて。その高官で受へま。曹操は。御辺。諸將と共。莫大
の功で立たり。そのゆゑ。西土の人。あつて。美談。子貢が賞を辞せし
て。仲尼されと。止善と宣へり。御辺。國の命。願と。いよく
あひく。敬ひけり。

繪本通俗三國志五編卷之壹終

122
74
28



122
74
28

繪本通俗三國志

五編一

繪本通俗

一國

122
74

東 京 圖 書 館

和書門

小
說
類

三
六
函

七
架

七
八
號

七
五
冊